

◆ 今週のコメント

- ・ **デング熱**の報告が1例(女性, 20歳代, インドネシア・バリ島)あります。本年の累積報告数は4例で、推定感染地域は、インドネシア2例, ブラジル1例, フィリピン1例です。
- ・ **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**の報告が1例(女性・60歳代)あります。感染症発生動向調査の始まった平成11年以降の累積報告数は21例で、年齢群別では60歳代が7例と最も多く、70歳代6例, 30歳代3例の順となっています。本疾患は、未だその発症機序が明らかになっていないことから、届出された場合に菌株の提供及び調査票等の記入を依頼することがありますので、御協力をお願いいたします。
- ・ **風しん**の報告が1例(男性, 20歳代)あります。平成20年に全数把握疾患へ変更されてから年間累積報告数は0～1例で推移していました。しかし、本年はすでに16例と、非常に多くなっていますので、今後の動向に御注意ください。
- ・ **伝染性紅斑**の定点当たり報告数は0.37(15例)で、第28週(0.39)に引き続き、過去5年平均値を大きく上回っています。
- ・ 基幹定点からの**マイコプラズマ肺炎**の報告が、1例あります。全国でも過去の同時期と比べて高い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2.54(104例)で、先週(2.54)と同様、多くなっています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 二類: 結核 2例(肺結核 なし, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 1例)うち喀痰塗抹陽性 なし
【1月以降の累積報告数 248例(肺結核 95例, その他結核 53例, 潜在性結核感染者 100例)うち喀痰塗抹陽性 51例】
- ・ 四類: **デング熱** 1例【1月以降の累積報告数4例】
- ・ 四類: **レジオネラ症(肺炎型)** 1例【1月以降の累積報告数 6例】
- ・ 五類: **劇症型溶血性レンサ球菌感染症** 1例【1月以降の累積報告数 4例】
- ・ 五類: **梅毒(無症状病原体保有者)** 1例(第26週追加)【1月以降の累積報告数 5例】
- ・ 五類: **風しん** 1例【1月以降の累積報告数 16例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.00	0
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	3.07	126
	② ヘルパンギーナ	2.54	104
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.76	31
	④ 水痘	0.73	30
	⑤ 突発性発しん	0.39	16
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

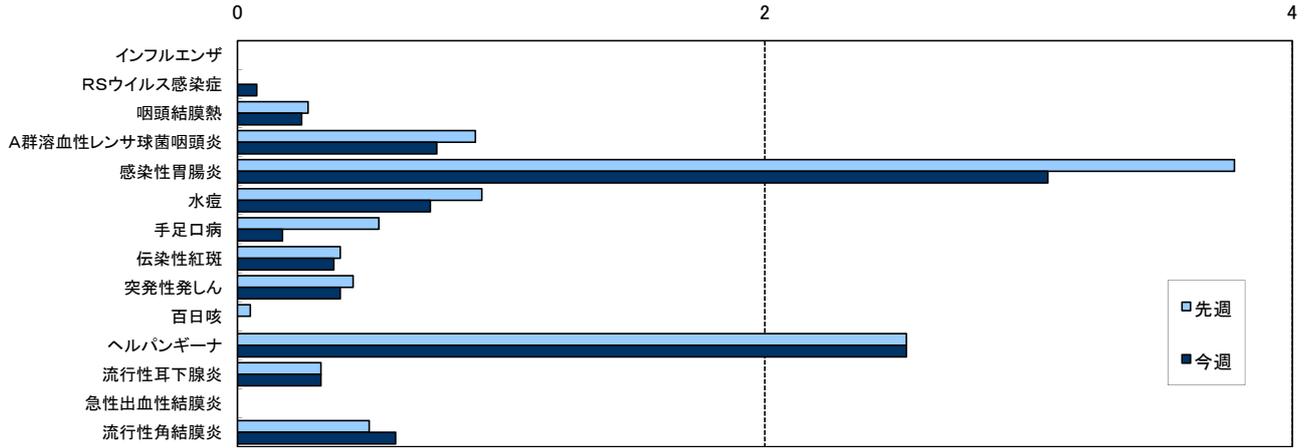
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <ヘルパンギーナ>

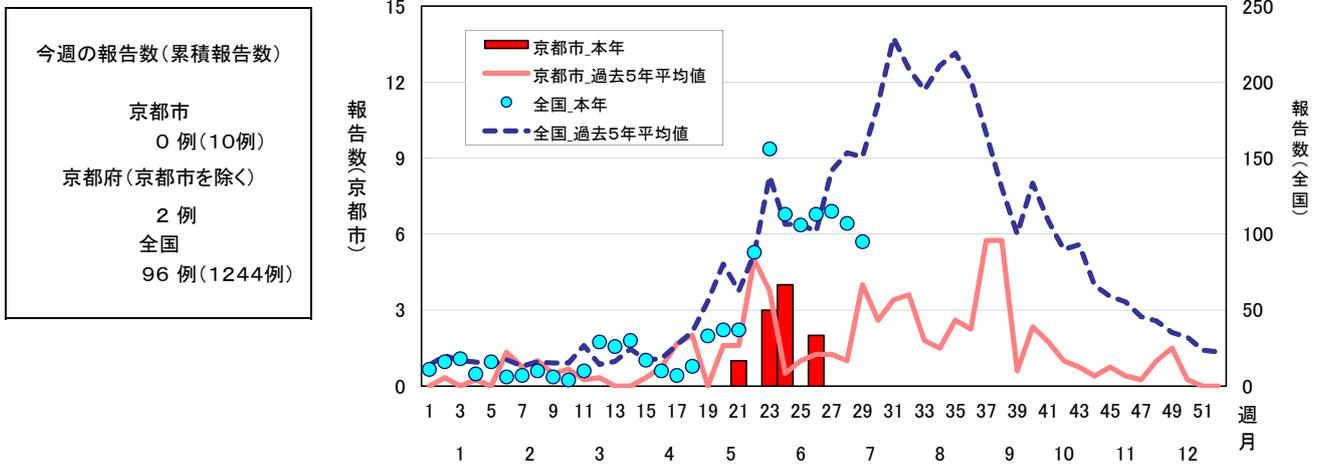
(注) 京都市のデータは、平成24年7月26日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第29週)と先週(第28週)の定点当たり報告数の比較

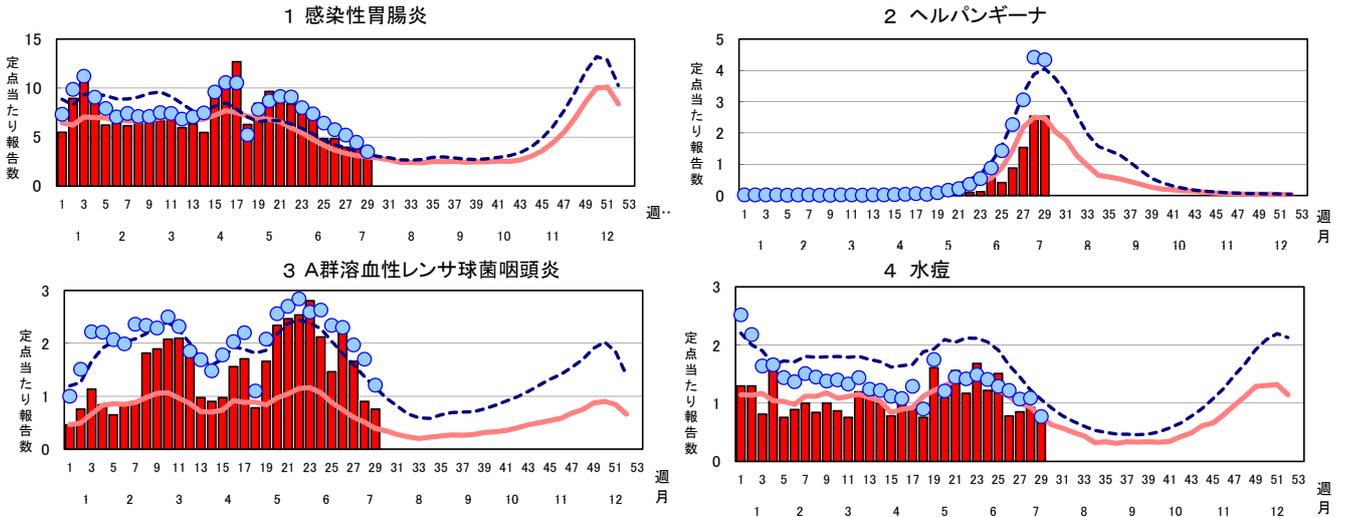


2 腸管出血性大腸菌感染症の推移

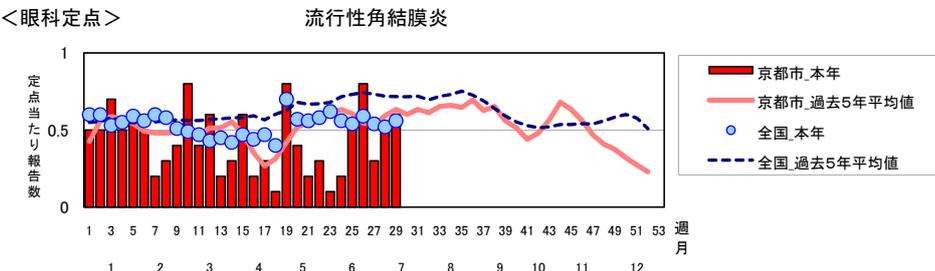


3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

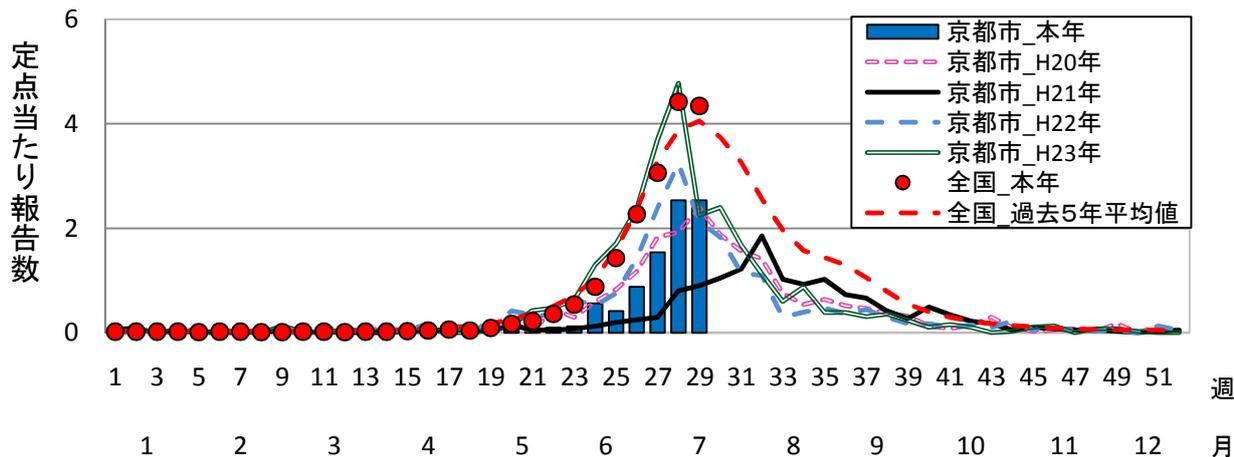


第29週(7月16日～7月22日)トピックス: <ヘルパンギーナ>

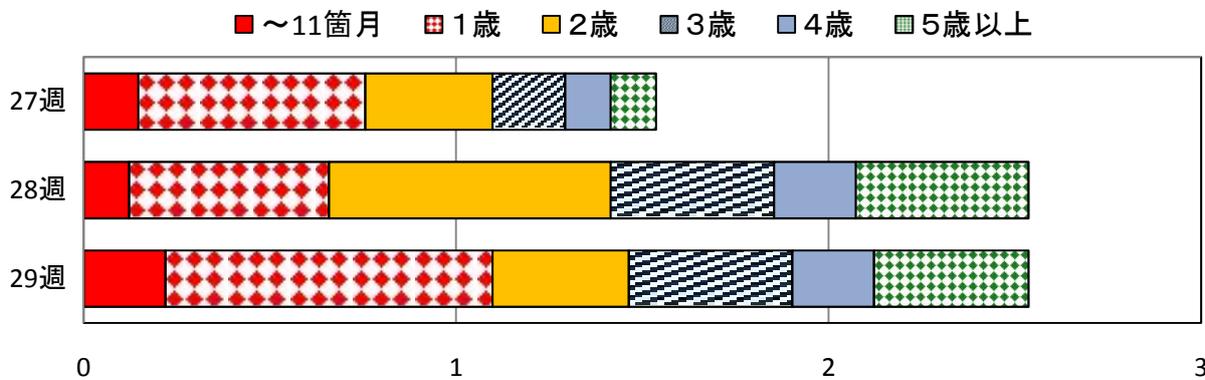
ヘルパンギーナの定点当たり報告数は2.54(104例)で、先週(2.54)と同様、多くなっています。年齢階級別にみると、1歳が36例で34.6%と最も多く、次いで3歳18例(17.3%)、2歳15例(14.4%)の順で、1歳～3歳で66.3%を占めています。先週に比べ1歳の割合が多くなっています。

全国で検出された、ヘルパンギーナ由来のコクサッキーウイルスは、平成20年と平成22年にはコクサッキーウイルスA(CA)2及びCA4が、平成21年と平成23年にはCA6及びCA10が多くなっており、隔年で主流が交代しています。本年はCA4の検出数が多くなっています。(平成24年7月27日現在)

本市及び全国の定点当たり報告数の推移



年齢階級別定点当たり報告数の推移



ヘルパンギーナから検出されたクサッキーウイルスの推移【全国】(平成24年7月27日現在)

